

図画工作・美術、芸術（美術・工芸）科における異校種間の連携の工夫

新学習指導要領では、総則において「言語活動の充実」が求められ、美術の教科に関しては、鑑賞の指導について十分な授業時数を確保することが求められている。これらの要請に対応した異校種間の望ましい連携の在り方を探り、事例提案する。

【研究テーマ】

小・中・高等学校の児童生徒が、美術を通じた相互交流によって学び合う「望ましい連携の在り方」の提案 - 「自画像」の制作を共通課題とした取組 -

- 1 高校生が企画・運営する小・中・高等学校合同の美術展の開催
- 2 美術専門学科の高校生が教科指導のアシスタントとして加わる小・中学校における鑑賞の授業 - 言語活動の充実を目指して -

【研究の視点】

- ・「批評することは創造的な行為」と仮定した鑑賞の授業における「言語活動の充実」
- ・「自画像」による児童生徒の生の交流から、美術を通じたキャリア教育への展開

【調査研究の手立てと事例】

(1) 共通課題「自画像の制作」

小学校

- ・「ぼく・わたしのオモロー」
- ・「みて・みて・みて！わたしの顔」
- ・「いろいろな顔をみてみよう」

中学校

- ・「自画像を描く・自分と向きあう」
- ・「ピカソ・アラカルト！！」
- ピカソに挑戦自画像鑑賞会

高等学校（美術科・普通科）

- ・「うれしい」「たのしい」「しあわせ」の感情
- ・美術部普通科生徒・異学年連携・連携の試案

(2) 高等学校の文化祭での小中高合同の美術展

(3) 美術科高校生が指導のアシスタントとして

加わる小・中学校における鑑賞の授業

実践事例 2

「自画像をテーマとした鑑賞の授業による連携の工夫
～中学生と高校生とが連携して学び合う鑑賞～」

実践事例 3

「自画像をテーマとした鑑賞授業による異校種の連携
～鑑賞活動を通じた小学生(高学年)と高校生の交流～」

【成果と課題】

成果

小中高合同展覧会

- ・児童生徒・保護者の好評
- ・地域社会に開く望ましい連携
- ・美術を通じたキャリア教育
- ・高校生の人間力の育成
- 「自画像」について
- ・系統性を考察する上での効果
- ・生き方在り方を学ぶ題材
- ・授業展開の多様性
- 高校生の指導アシスタント
- ・学びの振り返りと深化
- ・自信の生起と意欲の喚起
- ・「言語」による自他理解
- ・表現活動、創造への刺激

課題

- ・支援的な態度の育成(事前指導)
- ・レトリックと「感じ取る力」
- ・時間、予算、施設設備の課題
- ・高等学校普通科生徒との連携
- ・高大の連携